



衣川 実介

『磁石を狂わす石』

ゆるキャラブーム、この地の彼は『玄さん』と名付けられ、六角の玄武岩をイメージして製作されています。玄武洞という名前が付けられたのは江戸時代、儒教の学者柴野栗山です。有名な石山だったこの地を訪ねて、神秘的な姿から北を守る神「玄武」を連想して玄武洞と名付けたのです。明治17年日本で初めて大学に地学教室を開いた東京大学の小藤文次郎博士が、英語でバサルト(Basalt)と呼ばれる火成岩の日本名を玄武洞の名前から「玄武岩」と名付けられました。

2011年7月、『鉄のふしぎ博物館』へ来館された田中栄一様(玄武洞ミュージアム館長) ご来館の予約電話の際、私は玄武岩を持っていないので、ご来館の折ぜひお持ちくださいとお願いしていました。

自家用車でのご来社、助手席に3ヶの玄武岩が乗っていました。玄武岩には磁石につくものや反応するものがあるので、欲しかったのです。最大の岩は11kgありました。寸法は270mmx 200mmx 120mmです。この石は昔、近所の人が玄武洞から持ち帰り、漬け物石として使っておられたそうです。石の側面に強力なネオジウム磁石をぶら下げて調べると、石ころから反発して離れるところが何ヶ所かあります。『あれ?あれ?』磁石につく石はたくさん見てきましたが、磁石を退ける石は初めてです。

今度は、上面にコンパスを置いてみました。すると、N極(赤針)の向きが置く場所によって大きく異なるのです。この石を頂いた彼に電話をかけて見ました。玄武岩の磁性、特に磁針を狂わすような調査報告書はありませんか?そうお尋ねしましたが、そのようなレポートは無いということでした。

この不思議な石のことを、どなたか教えて欲しいものです。現在、『鉄のふしぎ博物館』に展示しています。



参考

玄武洞ミュージアム

所在地 〒668-0801

兵庫県豊岡市赤石1362

TEL 0796-23-3821 FAX 0796-24-0913

genbudol@viola.ocn.ne.jp

1月号の『夢通信』平成21年と書き間違っていました。
ごめんなさい。



『鉄のふしぎ博物館』

来て!見て!ふれて! ふしぎ体感

鉄を見る目が変わりますよ。
ぜひお越しください。

餅鉄 天然磁石



むらの鍛冶屋®

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>

<http://www.kanamonoya.co.jp/auto/>

<http://www.kanamonoya.co.jp/catena/>

ryou@memenet.or.jp

bike@kanamonoya.co.jp



何でもお気軽にお尋ねください!!